

第4回 建設業経理士検定試験 1級財務分析

[第1問]

問1

流動性分析とは、企業の短期的な支払能力を分析することである。短期的な支払能力は、支払うべき債務に対する支払手段の保有状況をいう。よって、流動性分析の問題は、貸借対照表における流動資産と流動負債のバランスとして分析される。建設業の流動性分析において、特に配慮すべき点は、建設業会計の特質である未成工事勘定の取り扱いである。未成工事勘定とは、未成工事支出金勘定と未成工事受入金勘定である。これらの金額は巨額であることが多く、流動資産および流動負債に占める割合が多くなる。よって、未成工事勘定の流動資産および流動負債に占める大きな影響を除去するため、分析比率を工夫しなければならない。例えば、建設業の流動比率の場合、分子の流動資産から未成工事支出金勘定を控除し、分母の流動負債から未成工事受入金勘定を控除して計算することが望ましい。このように建設業の流動性分析において、未成工事勘定を特に配慮すべきである。

[第2問]

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
タ	ナ	ウ	オ	カ	ニ	コ	ノ	ア	ネ

11
キ

[第3問]

- A  百万円 (百万円未満を切り捨て)  
B  百万円 ( 同 上 )  
C  百万円 ( 同 上 )  
D  百万円 ( 同 上 )

純支払利息比率  % (小数点第3位を4捨5入し、第2位まで記入)

〔第4問〕

問1 ¥  (円位未満を切り捨て)

問2 ¥  ( 同 上 )

問3  %

問4  %

〔第5問〕

問1

A 総資本経常利益率  % (小数点第3位を4捨5入し、第2位まで記入)

B 自己資本事業利益率  % ( 同 上 )

C 完成工事高キャッシュ・フロー率  % ( 同 上 )

D 営業キャッシュ・フロー対

流動負債比率  % ( 同 上 )

E 運転資本保有月数  月 ( 同 上 )

F 負債比率  % ( 同 上 )

G 有利子負債月商倍率  月 ( 同 上 )

H 固定資産回転率  回 ( 同 上 )

I 資本集約度  百万円 ( 百万円未満を切り捨て )

J 付加価値率  % (小数点第3位を4捨5入し、第2位まで記入)

問2

(1)

1	2	3	4	5
カ	ウ	ネ	タ	ト

(2)

1	2	3	4	5
オ	シ	ス	サ	ミ